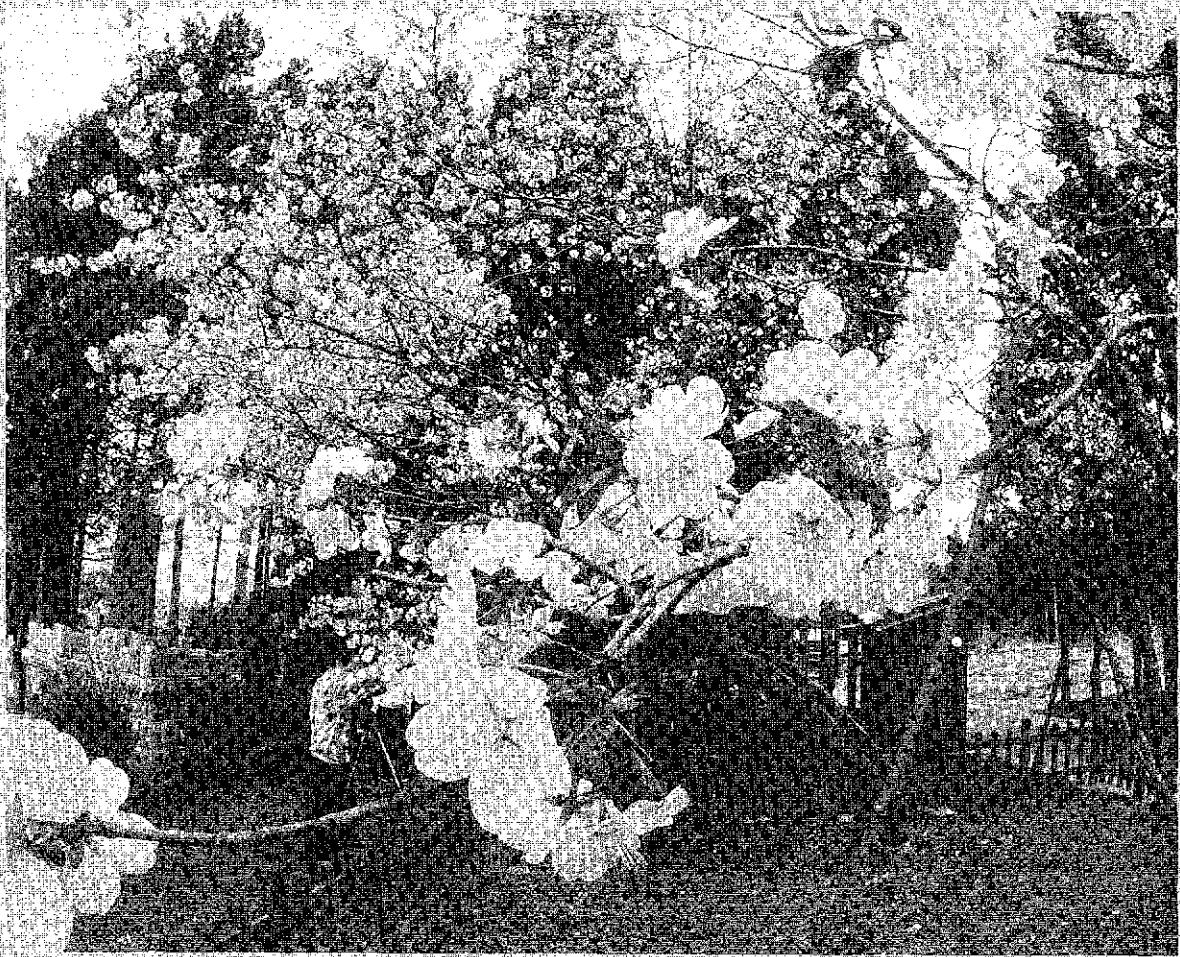


新潟県

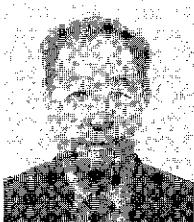
# 公民館月報 5

平成12年5月号 通巻第567号

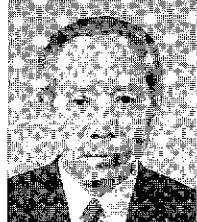


表紙 国指定天然記念物 特集 新任職員のための公民館ガイド  
「極楽寺の野中ザフラー」  
(上川村公民館)  
新潟市貝津幸治氏撮影

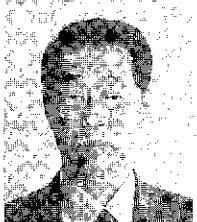
祝 点 「学び」から「実践」への連携を 須貝ハル子  
ひろば 熟年パワーに期待! 山崎昌子  
実践記録 「ふるさと閑屋祭」  
サークル交流 コーロ・アヴァンティ (加茂市)  
バッチャワーク教室 (田上町)  
素顔打見 坂田利一さん (白根市中央公民館)  
本保敦子さん (栗島浦村中央公民館)



**前理事  
伊藤和仁**



**前副会長  
磯辺萃史**



**前副会長  
田村浩一**

1、任期満了、自営業と取り組みながら地域の中で公民館活動に協力。

2、各種色々な事業を体験し、活動を期待し、御発展をお祈り

多くの人達と出会い、これ程人集めが大変であること、自分なりに勉強になりました。

3、公民館と生涯学習、利用する人は変わらず、もっと各事業に参加されるよう何らかの方法が必要か。自分から進んで参加される公民館づくりに一層のご活躍を期待し、御発展をお祈り

ます。ありがとうございました。

1、自己都合による。  
2、短い期間でしたが、多くの素晴らしい方々との出会いと、貴重な体験をすることができたことです。



3、公民館事業は、担当する職員が楽しくなければ人は集まらないと思います。発想の転換をして、努力してほしいものです。

それでは県公民館連合会の五十周年記念大会の盛会と、ますますの御発展をお祈りいたしま

1、勧奨退職、鰐長岡市体育協会専務理事  
○地区公民館長(30人)をはじめ多くの人と出会えたことです。

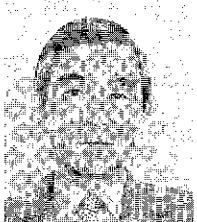
○多くの市民の方が趣味や諸活動に参加されていることを知ったこと。  
○地区公民館を中心としたコミュニケーションセンター化に着手できました。  
3、最後まで、自分の公民館像を描けなかった。逆を言えば、それだけ公民館は幅広いものなのでしょうか。

1. 異動内容・異動先等
2. 在任中、印象に残つた事業、事柄等
3. 退任に当たつて贈る言ひじば

## 今年の人事異動に伴う當会役員

# 退任のことば

## 『県公連の一層のご発展を祈念』



**前評議員  
佐藤正巳**



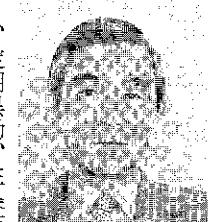
**前評議員  
渡辺利彦**

- 中越公連評議員会 五月十七日(金)長岡市、アトリウム長岡
- 全公連監査 五月十九日(金)東京都霞山会館(今井会長出席)
- 県公連理事会・評議員会 五月二十六日(金)新潟市中央公民館
- 県公民館大会第2回実行委員会 五月三十日(火)水原町役場
- 関プロ公連理事会 六月一日(木)、二日(金)水戸市県民文化センター(今井会長、鈴木事務局長出席)
- 全公連理事会 六月二日(金)東京都霞山会館(今井会長出席)
- 全公連三役会・総会 六月九日(金)東京都虎の門バストラベル(今井会長、二ノ倉副会長出席)
- 平成12年度ブロック代表者、全公連合同会議
- 六月二十三日(金)東京都霞山会館(今井会長出席)

## ☆五・六月諸会議の予定

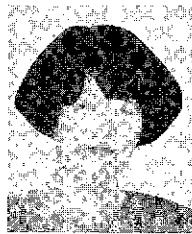
1. 定期異動、三条市農業委員会事務局長
2. 多くの素晴らしい方々と出会い、交流がもてたこと。  
また、市内の全公民館の受講
3. 変革期にある公民館運営に多くの課題がありますが、学習する人々に喜びを与え、和と輪りあう交流ができる貴重な体験でした。  
3、公民館活動を通じて、教える文化団体等の事業を通じて、多くの市民の皆さんと出会い、ふれあう交流ができる貴重な体験です。

者が学習した成果を一同に会して発表する公民館まつり(作品展・芸能発表)を開催し、大勢の市民の皆さんから鑑賞いただき、あれあつていただいたことです。



**前評議員  
佐藤正巳**

- 中越公連評議員会 五月十七日(金)長岡市、アトリウム長岡
- 全公連監査 五月十九日(金)東京都霞山会館(今井会長出席)
- 県公連理事会・評議員会 五月二十六日(金)新潟市中央公民館
- 県公民館大会第2回実行委員会 五月三十日(火)水原町役場
- 関プロ公連理事会 六月一日(木)、二日(金)水戸市県民文化センター(今井会長、鈴木事務局長出席)
- 全公連理事会 六月二日(金)東京都霞山会館(今井会長出席)
- 全公連三役会・総会 六月九日(金)東京都虎の門バストラベル(今井会長、二ノ倉副会長出席)
- 平成12年度ブロック代表者、全公連合同会議
- 六月二十三日(金)東京都霞山会館(今井会長出席)



# 視点

新発田市  
の公民館事  
業は、高齢  
者、女性、  
青年男女、  
ちびっ子と  
同士の交流を深め、  
ネットワークづくり、  
受講者から発言続出  
(時には脱線)  
熱氣溢れるセミナーとなつた。

は、情報発信、知識伝  
達の場として大事な役  
割を果たしていた。そ  
れにちなんでの命名で  
ある。講義・情報交換  
の場を設定し、参加者  
二十代から七十代の受  
講者二十九人のユニ  
クなメンバーで構成さ  
れた。意見交換では、  
受講者から発言続出  
(時には脱線)  
熱氣溢れるセミナーとなつた。

始まり、個性豊かな地  
域社会の形成が求めら  
れている現在、「学び」  
から「実践」への連携  
をし、まちづくりに参  
画する喜びや、生きが  
いづくりのための公民  
館の果たす役割は重要  
である。

地域活動へ連携する方  
向を模索するため開設  
されたセミナーである。  
「地域に開かれた学  
習内容を設定、講義と  
開設した。普井戸端

今後は、自主運営、  
ネットワークづくり、  
地域活動をという意  
向を考へるといふ新  
しい試みで開催される。  
実のあるものになるこ  
とを期待している。

(新発田市公民館  
館長補佐)

## 須貝ハル子

今年七月の県公民館  
大会は、創立五十周年  
を迎える、学習者の視点  
で公民館の歩むべき方  
向を考えるといふ新  
しい試みで開催される。  
実のあるものになるこ  
とを期待している。

新潟市  
の公民館事  
業は、高齢  
者、女性、  
青年男女、  
ちびっ子と  
同士の交流を深め、  
ネットワークづくり、  
受講者から発言続出  
(時には脱線)  
熱氣溢れるセミナーとなつた。

一つは物忘れの激しさで  
す。最近特に強く、ふと気  
付いた時、「あれ? 私、今  
何をしようとしているのか  
な?」と自問。元の場所に  
戻って、今一度じっくり考  
え自答。そして納得。これ  
は、やはり「年のせい」で  
しょうか。

いま一つは物覚えの悪さ  
です。友人とEメールを交  
わしたり、インターネット  
を楽しんでいますが、時々  
トラブル発生。パニックと止  
まってしまった画面に右往左  
往。すっかりパニック状態です。

あせればあせるほど深みにはま  
ります。SOSを発信しても、  
頼みの綱の主人には、「無能力」  
呼びわりされ、パラサイトシン  
グルの娘にはソッポを向かれ、  
固く結ばれてはいるはずの家族の  
深い絆は何処へと、悲しい気持  
ちにさせられます。こんなこと

が度重なると、自己嫌悪に陥  
ってしまいます。

でも年を重ねることはマイナ  
スばかりではありません。求  
とが多々あります。

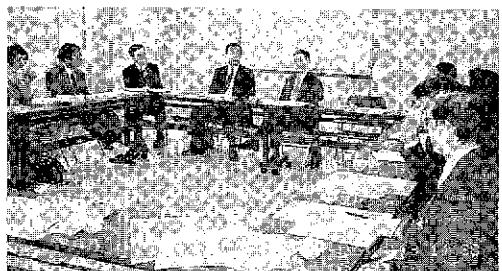
人欄の年令制限にショックを受  
けるものの、若い人達には決し  
て負けることのない、

ちよつとのことは絶対にありま  
す。

又、山頂(目的)に到達  
するのに、一つの道だけで  
なくいろいろな道があるこ  
とを知っています。そして  
山頂に早く到達することだ  
けが良いのではなく、少し  
くらい時間がかかるでも、  
四季折々の風景を楽しんだ  
り、周りの変化を確かめな  
がら、一歩一歩着実に進ん  
で行く大きさを十分知つて  
います。

もうすぐ迎える二十一世紀。  
驚くほどのスピードで、高令化  
社会がやって来ます。色々な問  
題が山積しています。これから  
は今までの「知恵と体験」を  
携えて積極的に社会参加し、  
様々な活動を通して人の輪を広  
げて行きたいと思います。頑張  
れ! 熟年パワー。

## 県大会第1回 実行委員会開催される



◇平成12年4月13日

◇聖籠町公民館で

春うらら、県内でも開花宣言の聞かれる4月13日(木)、聖籠町公民館で第1回実行委員会が開催された。

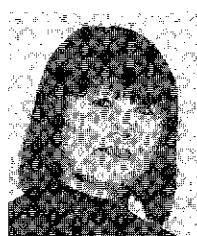
水原町公民館吉田館長の進行の下、県公連の今井会長のあいさつ、そして人事異動もあったことから出席者の自己紹介、ついで経過説明がなされた後、協議に入った。

1の開催要項の作成については、大よそ出来上がっているので、項目ごとに確認しながら進め、記念講演の演題については、今井会長から、講師の廣瀬隆人先生と打合せの結果「公民館の未来をさぐる」と決定した旨の発言がなされ、了承した。

2の実行委員会の編成については、各市町村より3名ずつ選出してもらい、次回第2回実行委員会で発表することとなった。

3の予算については、県公連事務局と打ち合せて編成することとなった。

## 小国町中央公民館運営審議会委員 山崎昌子 熟年パワーに期待!



○十代  
を迎えて  
から、痛  
感するこ  
とが多々  
ありま

す。  
でも年を重ねることはマイナ  
スばかりではありません。求  
とが多々  
あります。

人欄の年令制限にショックを受  
けるものの、若い人達には決し  
て負けることのない、  
ちよつとのことは絶対にありま  
す。

又、山頂(目的)に到達  
するのに、一つの道だけで  
なくいろいろな道があるこ  
とを知っています。そして  
山頂に早く到達することだ  
けが良いのではなく、少し  
くらい時間がかかるでも、  
四季折々の風景を楽しんだ  
り、周りの変化を確かめな  
がら、一歩一歩着実に進ん  
で行く大きさを十分知つて  
います。

が度重なると、自己嫌悪に陥  
ってしまいます。

でも年を重ねることはマイナ  
スばかりではありません。求  
とが多々  
あります。

人欄の年令制限にショックを受  
けるものの、若い人達には決し  
て負けることのない、  
ちよつとのことは絶対にありま  
す。

又、山頂(目的)に到達  
するのに、一つの道だけで  
なくいろいろな道があるこ  
とを知っています。そして  
山頂に早く到達することだ  
けが良いのではなく、少し  
くらい時間がかかるでも、  
四季折々の風景を楽しんだ  
り、周りの変化を確かめな  
がら、一歩一歩着実に進ん  
で行く大きさを十分知つて  
います。

もうすぐ迎える二十一世紀。  
驚くほどのスピードで、高令化  
社会がやって来ます。色々な問  
題が山積しています。これから  
は今までの「知恵と体験」を  
携えて積極的に社会参加し、  
様々な活動を通して人の輪を広  
げて行きたいと思います。頑張  
れ! 熟年パワー。





燕大学で熱心に学ぶ市民

事業がスタートし、ちょっと余裕がでてきたり、生涯学習、燕大学で熱心に学ぶ市民

地域課題や社会情勢をどう料理して具体的に学習プログラムや事業として取り組んでいくかは、その公民館職員の意識や感性によって違ってきます。

事業に追われ「自分を見る」ことを忘れないでください。自分自身の状況を把握し、自分自身を向上させることに意欲になつてください。それが公民館活動を活発にし、地域を活性化させていくことにつながるのでありますから。

## 特集

# 新任職員のための

燕市中央公民館長

社会教育、公民館という似たような言葉の違いを知つてほしいと思います。

一九九〇年(平成2年)に生涯学習振興法が成立して以来、社会教育に代わって生涯学習という言葉がひんぱんに使われるようになってきたように思います。しかし、両者はもちろん同じではありません。

一九八一年(昭和56年)に中央教育審議会が出した「生涯教育について」という答申の中では、「生涯教育とは、国民の一人ひとりが充実した人生を送ることを目指して生涯にわたって行

う学習を助けるために、教育制度全体がその上に打ち立てられるべき具体的な理念である。」と定義しています。ただ、学習機会を整備し供給する側からいえれば生涯教育ですが、学習者の立場からみると生涯学習というこのになるので、学習者の主体性を尊重して、生涯学習という言葉が一般的になっています。

ですから、生涯学習は学校教育や社会教育の上部概念です。よく、生涯学習イコール生涯勉強し続けることと、とくにいる方をみかけますが、誕生から死に至るまでの学習機会を整備することと混同しているのではないかでしょうか。

そして、生涯学習という理念

社会教育、公民館という似たような言葉の違いを知つてほしいと思います。

一九九〇年(平成2年)に生涯学習振興法が成立して以来、社会教育に代わって生涯学習といふ言葉がひんぱんに使われるようになってきたように思います。しかし、両者はもちろん同じではありません。

は従来の学校教育中心主義からの脱却を意図しています。三月だったと思いますが、朝日新聞に舞踊家の花柳幻舟さんについてのコラムがありました。花柳さんは両親の仕事の関係などで花柳にもろくに通えませんでしたが、40歳を過ぎてから放送

大学に入学。一日のほとんどを学習に費やし、トップの成績で卒業後も学習を続けています。花柳さんは「学歴がないことにずっと劣等感を持っていた。でも、わたしはほんとは勉強が好きだったんだ。」と述べています。

生涯学習は、学歴偏重社会を否定し多様な生き方を可能にする考え方といえるのではないかでしょうか。

さて、社会教育法では、社会教育を「学校教育法に基づき、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動」と定義しています。そして、社会教育施設として役割の大きい公民館の目的を「市町村その他一定区域内の住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もつて住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化的の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化的振興、社会福祉の増進に寄与する

こと」としています。

ちょっと固い言葉が並びましたがあなたのまちの関係条例なども読んでおきましょう。

## ◇おわりに

時代はハードからソフトへと動いています。地方分権も始まり、これからは地域の個性がはつきりしてくることでしょう。

このようなときに公民館職員としてスタートしたあなたに、いままで述べてきたことのほかにぜひ身につけてほしいのは

コーディネート能力です。市民と行政の協働、NPO・NGO活動の活発化が予想され、市民と市民、市民と行政、行政と行政を結ぶ要としての活躍を期待しています。

最後に、一九八五年のユネスコ成人教育国際会議での学習権宣言を記して終わります。

学習権とは、読み書きの権利であり、問い合わせ、深く考える権利であり、自分自身の世界を読みとり歴史を綴る権利であり個人的・集団的力量をつくる権利である。



# 実践記録シリーズ(43)

## 「ふるさと関屋樂」

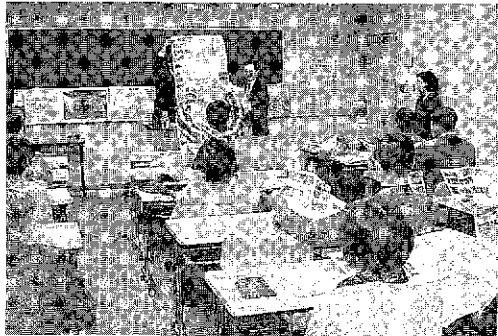
### 新潟市関屋地区公民館

主任 大崎信子

#### 一、はじめに

新潟市関屋地区公民館は、人口約二万四千人余りの静かな文教地区にある。昨年より大型ショッピングセンターができ、町に一段と活氣をもたらした。

ここに紹介する事業は、平成六年から十年まで県補助事業の地域学習講座として立ち上がり、平成十一年からは市単独事



業「ふるさと関屋樂」として、郷土史はもとより、現代課題の自然や町づくりを考える学習である。

#### 二、「もっと知りたいふるさと関屋」の経過

この講座の幕開けは、この地域の社会教育主事等の十数人のアドバイザー会議から始まりた。関屋らしい講座をしたいといたが、発案の思いが伝わり、討議の末、郷土の歴史を調べる講座、それが「もっと知りたいふるさと関屋」であった。その方々から企画に加わっていただき、講師や講座のコーディネーターとなり支援し続けることになった。その中心者はH氏であることは論をまたないが、何よりも手を入れた大先輩であるT氏は、流石である。

いざ講座の募集が始まると電話が鳴りっぱなしで、断りが出て程の反応があり、公民館では

珍しく男性の受講者が多く、心のある人々が集まつた。

しかし、こと関屋に関する記述は、新潟市史や古文書にも少

なく、資料集めに苦労した。最

も困ったのは、専門家の講師探しである。関屋の郷土史、歴史が良く分らない。研究され

ていないとの理由からある。そ

こで頭脳集団の方々は考慮を絞り、関屋に長く住んでいる人、

昔の地主、漁師、農家、工員の方々を講師に招き、話を聞き、講座生の中からも自分たちの知的情報や意見も出し合い、活発に運営された。

多くの講座生は、「関屋地区

は住みやすく緑の多い場所だ。」

と思っていたが、地図に書き込

み作業をした結果、もとと自然

を調べてみよう。道の由来、渡

り鳥の中継地の海岸林の松林、

資料の少ない関屋地区にとつては、聞き取り調査や資料集めに苦労したと聞いている。

その成果として「せきや見聞録」を4冊と、郷土史マップ「ふるさと関屋・今昔物語」を作成した。それも講座生の手作りでワープロから印刷まで自分たちで行い、公民館は出入りの多い賑やかな五年間であった。そして、六年日の「ふるさと関屋樂」、郷土史から現代版の地域学までの取組みが始まった。

#### 三、新しい取組み

戦後、社会変化の激しさは全般的なものが、関屋地区ではどう変わったか。今と昔の比較、失われていったもの、人の暮らいや文化、自然はどうなのがを

中心に、ワークショップ技法を取り入れて参加型の講座とし、地域学の一年目を足掛かりとして進めていった。

#### 新講座の前半は、講義とウ

ォッチングをし、後半はワーク

ショップによる関屋の良いとこ

ろ好きなところ、関屋らしいとこ

ころを話し合ったり、発表した

りしながら、講座生はワーク

ショップに次第に慣れていっ

た。多くの講座生は、「関屋地区

は住みやすく緑の多い場所だ。」

と思っていたが、地図に書き込

み作業をした結果、もとと自然

を調べてみよう。道の由来、渡

り鳥の中継地の海岸林の松林、

資料の少ない関屋地区にとつては、聞き取り調査や資料集めに苦労したと聞いている。

その成果として「せきや見聞

録」を4冊と、郷土史マップ「ふ

るさと関屋・今昔物語」を作成

した。それも講座生の手作りで

ワープロから印刷まで自分たち

で行い、公民館は出入りの多い

賑やかな五年間であった。そし

て、六年日の「ふるさと関屋樂」、

郷土史から現代版の地域学とし

ての取組みが始まった。

#### 四、おわりに

#### 十二年度のテーマは、松・川

道・堀割とし、最後にペネル

ディスカッションをして一年の

成果を発表して締めくくろうと

企画している。そして、もとと

若い住民からも参加してもらう

ため、土曜日の午後に日時を変

更し、二年目を迎えるがどの様

になるか手さぐり状態で、模索

中である。ただ一つ言えること

は、「安心して住むことのできる

町づくり」がキーワードである。

信濃川と昔の堀割を調べたい等と声があがり、現在版の講座としての成果があった。

#### 11年度 ふるさと関屋樂 ～関屋の郷土史や現代課題を探る～(自然・町づくり)

No.	期日	テーマ(内容)	講師
1	6/4(金)	関屋今昔物語について	フリーライター 横口 隆太郎
2	7/2(金)	関屋砂丘を調べる	郷土研究家 阿部 正
3	7/30(金)	関屋のあらかると	フリーライター 横口 隆太郎
4	9/3(金)	町並みウォッチング	キャリアテクニカ専門学校講師 高橋 正良
5	10/1(金)	関屋海岸林の鳥たち(ウォッチング)	にいがた野鳥の会 南雲 照 ほか 2名
6	11/12(金)	関屋海岸林の鳥たちその2	にいがた野鳥の会 伊藤 定市
7	12/3(金)	川を生かした町づくり	建設省信濃川下流工事事務所所長 久保田 一
8	1/14(金)	関屋の魅力さがし1(ワークショップ)	新潟大学非常勤講師 相楽 治
9	2/4(金)	関屋の魅力さがし2(ワークショップ)	新潟大学非常勤講師 相楽 治
10	3/3(金)	関屋の魅力さがし3(ペネルディスカッション)	コーディネーター 横口 隆太郎 アドバイザー 高橋 正良 ペネラー 鈴木 良サ 講者 2名

# サーカス交流

前向きによりよい

音楽づくりを

コーロ・アヴァンティ

コーロ・アヴァンティは加茂市が本拠地の女声合唱団で、アヴァンティとは前進の意、よりよい音楽づくりを目指して前進しよう。加茂市を中心に県内各地から集まつた仲間により11年前に結成された。加茂市音楽祭の他いろいろな場に出演してきたが、昨年は東京国際フォーラムや新潟市芸文で、この二月には再び芸文で演奏ができた。加茂の老人保健施設・さくら苑

で歌うことも楽しみの一つである。また、11月26日には、芸文での演奏会を予定している。

団員は現在25名、東京からの

指揮者による月一回のレッスンに備えて、毎週火曜加茂市公民館に小型キーボードと昼食持参で集まり、自主練習を行つている。一人ひとりの自発性を前提に、歌い聴きあい指摘しあう過程は厳しくもあるが、きれいな響きに至つた瞬時の喜びはそれ故に大きい。

公民館のある加茂山は花の季節、若楓・緑葉へと続いていく四季の恵みの中で音楽に没頭できる幸運を深く感謝している。

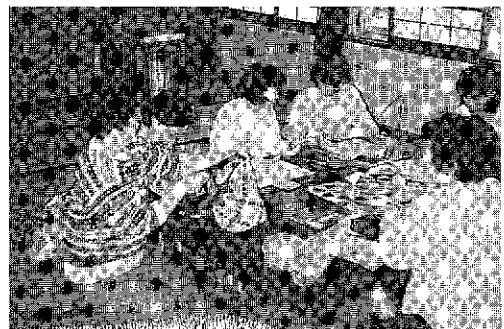
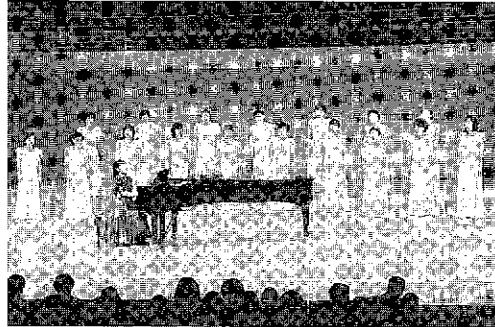
(同合唱団 八子 和子 記)

布のつぎはぎで

田上 パツチワーク教室

平成三年、婦人学級の講座の一つとしてパツチワークをやつたところ、かなり評判が良く、翌年、パツチワーク教室として自主運営で、スタートしました。

お手の物と言ふことで、多くの年配の方々がパツチワーク教室に参加下さいました。



## 白根市中央公民館

主事 坂田利一さん

昨年四月から公民館職員となりました「リーチ」こと坂田利一君を紹介します。

公民館事業は初めての経験ですが、持ち前の明るさで精力的にこなしています。アイデアマンで、ジョーク好き、競馬をはじめ世間の話題に事欠かない博識なすごいやつです。特に、カラオケはす

ごい！歌詞を見ず、メロディーを意識せずに

副館長 船越 正徳 記  
(白根市中央公民館)

## 顔見

今後は情報化への対応など、多くの難題を抱えていますが、持

ち前の精神で頑張るものと思いまます。一方、家庭では、鉄工所と居酒屋を営むご主人と二人三脚で頑張っています。島を訪ねる仲間をお店で手厚く接待成すところなどは、人との親交を大切にする彼女の人の柄の表れでもあります。

西を取り入れるなどして毎年村民を楽しませています。

社会教育主事としても活躍しています。たった一人の公民館職員ですが、地域の期待に応えるため一人何役もこなしながら、その重責を果たしています。子供の手の込んだ大物の作品に感心し、年配の方達は、若い人達の配色の良さに「勉強になる」と言いつつ、パツチワークのことだけではなくいろいろなことを話しあいながら針を動かし、パツチワークを楽しんでいます。

多くの年配の方々がパツチワークを利用すること、縫い物はお手の物と言ふことで、多くの年配の方々がパツチワーク教室に参加下さいました。

(同教育委員会 本保 健男記)

パフォーマンスたっぷりで歌いこなします。「カンパイ」といってからお年寄りまで、各年代のニーズに応えて幅広い活動を開催しているところです。また、企画力や組織をまとめる力も優れており、今年で27回目を迎えております。

栗島浦村中央公民館職員採用されながら、一貫して公民館を担当する大ベテランです。しかも昭和57年からは、

社会教育主事としても活躍して

ます。たった一人の公民館職員ですが、地域の期待に応えるため一人何役もこなしながら、その重責を果たしています。子供の手の込んだ大物の作品に感心し、年配の方達は、若い人達の配色の良さに「勉強になる」と言いつつ、パツチワークのことだけではなくいろいろなことを話しあいながら針を動かし、パツチワークを楽しんでいます。

今後は情報化への対応など、多くの難題を抱えていますが、持

ち前の精神で頑張るものと思いまます。一方、家庭では、鉄工所と居酒屋を営むご主人と二人三脚で頑張っています。島を訪ねる仲間をお店で手厚く接待成すところなどは、人との親交を大切にする彼女の人の柄の表れでもあります。

